

来ぶらり78

前川國男作品のあるキャンパス

今年の5月のとある日、ギリシャの女子学生3人が学習院を訪ねて来た。彼女達は建築を学んでいて、訪問の目的は、前川國男の作品であった。彼女達の持っていた建築ガイドブックに、前川國男が紹介され、学習院における彼の作品が載っていたのは驚きだった。

前川國男とは誰か？ 建築家である。戦後、日本の建築界をリードしてきた巨匠の一人である。東大の建築学科を卒業したその日に、シベリア経由でフランスに渡り、世界的な建築家であった、ル・コルビュジエのアトリエに入ったという話は有名である。代表作品としては、上野の東京文化会館や、丸の内の東京海上ビル等がある。

私が、大学で建築を学び始めた頃は、代々木のオリンピックプールを設計した丹下健三の洗練された作品にあこがれた。が、何かしら物足りなさを感じた。そんな時、出会ったのが、前川國男の作品であった。その存在感、建築に込められた情熱といったものが強烈に感じられ、これが自分には合っていると思ったものである。

時は過ぎ、学習院に勤める事となり、前川作品が校内に多数有ることを知った時は、驚きと喜びでワクワクしたものである。

学習院の施設のデータ整理をしている時に、「生誕100年 前川國男建築展」が東京ステーションギャラリーで開かれたのに触発され、一つ「学習院における前川國男作品」をまとめてみようと思い、数枚のレポートを作成した。詳しく前川作品を調べていくと、疑問点や、発見が数多く出てきた。

北1号館と南2号館の柱の形状の持つ意味は？

答えは北1の101教室の天井にある。そこにXの形状に交差した梁を見ることができる。まだ、耐震性にそれほど関心なかった時に、彼は意識的にそれに取り組み、それをデザイン化したのである。



螺旋階段や、屋上にある給水塔の奇妙な形は？

鉄筋コンクリートによるデザインの可能性を追求したもので、同様に打ち放しコンクリートの持つ美しさをも追求した。結果は北1・南2・大学図書館の外壁にも見ることができる。（残念ながら、維持管理上から、今は塗装を施してある）。

中央教室（ピラミッド校舎）の内部に天井から下がっているリング状の照明は？

ヨーロッパの教会にある照明をイメージしたそうだ。でもなぜ、教会の照明が教室の照明に？

南5号館に使用してある、前川のトレードマークとなった打ち込みタイルとは？

これは^{セツキ}炆器質タイルをいって、吸水性のない耐久性に優れたタイルである。又、打ち込み工法（タイルを後で貼り付けるのではなく、コンクリートと一体化する工法）と相まって、維持管理を容易にすべく考えられたものである。

大学図書館には柱と梁がない。床と壁で重い本棚を支えるのだが、その技は？

調べれば調べるほど、触れれば触れるほど、前川國男が建築に注いだ情熱を、感じることができる。

建物には芸術品と呼ばれるものも少なくない。しかし絵画や、彫刻のように自由に持ち運んだり、倉庫にしまっておくというわけには行かない。ここに建物の悲劇がある。時代のニーズに答えられなくなった時、リニューアルで対応できなくなった時、建替えという事も考慮せざるを得ない。

学習院における、前川國男作品の中にも、そのような時期を迎えつつあるのも事実である。しからば、学習院にとって、前川國男作品を超える素晴らしい建物ができることを望む次第である。

施設部 施設課 / 中島 一夫

図書館と私

ご恩と奉公

「ここで勉強してるの。えらいですねえ。」
一見気難しそうな大学の先生に、図書館で声をかけられたことがきっかけで、図書館が好きになった。正直、私はそのとき、ただ空き時間をつぶすために館内をぶらぶらしていただけであった。だが、「大学の先生に褒められた」ということに調子づいた私は、「図書館にいるとなんとなく賢そうに見える」というひどく安直な思い込みを抱きながら、いつの間にか図書館にひきこまれていったのである。

図書館には、本だけではなく、さまざまな出会いや発見がある。いつも一緒にふざけあっていた友人が、閉館間際の図書館の片隅で、黙々と調べものをしているのを見かけたとき、遊んでばかりいた自分を恥ずかしく思った。暗そうで近寄りにくく、「本しか愛さなそう」と思っていた図書館の職員に、笑顔で挨拶されたとき、外見や職業で人物を判断していた自分を浅はかだと思った。

居場所としての図書館、問題解決の場としての図書館...私は図書館を、限りなく無

数の面からなる多面体だと思っている。図書館のどの面が、利用者一人ひとりのどのようなニーズにびたりとあてはまるのか、あまりにも多様すぎるため私にはわからない。けれども、図書館で見つけた何かが、5年後、10年後、あるいはもっと先の利用者の人生そのものに、大事な何かを残すだろうということは、確実に言えるのである。

私は今図書館で働いているが、「どうして図書館員になったのか」と聞かれたとき、端的に、「図書館に恩返しをしたかった」と言う。私にとって図書館は、知識の海のような場所であった。誰もがその心に、未知なるもので満たされた知識の海へと漕ぎ出すための、底知れない好奇心を持っている。自分がお世話になった「図書館」という組織で働き、貢献することで、誰かの生き方が、すばらしく豊かなものにも変わるかもしれない。そういう希望を胸に、私は今日も図書館で働くのである。

大学図書館 整理課 / 鈴木 泉

情報過多

OPACワンポイント・レッスン

少し前のことです。「参考文献にあげられていた『回想太宰治』という本をGLIM/OPACで探してみたが、学習院では見つからない。どうしたらよいか。」という利用者がレファレンス・カウンターに来ました。念のために、タイトルのキーワードで、GLIM/OPACを検索してみると見つかりました。あまりにも簡単にヒットしてしまったので、利用者に「どうやって検索したのか」尋ねてみると、「タイトル、著者名に「野原一夫」、出版社に「新潮社」、出版年に「1980」と入力した」ということでした。利用者は、この資料について知っている情報をすべて入力してしまったのです。入力し

たくなる気持ちも分からなくはありません。けれども、あまりにも詳細に情報を入力してしまうと、データベースのデータとうまく一致せず、ヒットしないということが起きます。例えば、参考文献に記載された出版年とデータの出版年が異なっていたり、出版社が変わって再版されたりすることはよくあることです。ですから、この場合、まずはタイトルのみで検索し、次に著者で絞り込むなどの工夫が必要だったようです。せっかく学習院にあるのに、情報過多でがんじがらめになっとうまく探せず、諦めたことはありませんか。

大学図書館 運用課 / 工藤 晶子

図書館員になったいきさつ

私は、大学卒業後、いくつかの職業を経て現職に就いた1年目の図書館員である。大学を卒業し、人々の生活を便利で豊かにしたいとの思いで入社した、銀行系カード会社で私の社会人生活はスタートした。

そんな私が図書館員になろうと思ったのは、毎日終電まで働いても仕事が溢れている状態に疲れ、働く意味を見失っていた社会人2年目の秋のことである。その日、私は携帯電話に残された図書館からの伝言メモを仕事帰りの夜道で聞いた。「予約していた本が届いた」という聞き慣れた内容だったが、その日はなぜか「週末はその本を読む楽しみが待っているから、明日も頑張る」と急に嬉しい気

分になった。同時に、「私もこういう気分を提供できる側になりたい。いつか図書館で働きたい」と思った。

そんな思いがあって、会社の事業内容の変更やその他諸々の理由で会社を辞めた時、私は迷わず図書館員を目指すことにした。放送局・銀行・メーカー等で派遣社員として働きつつ、週末は図書館でアルバイトをする生活を経て現在に至る。図書館員になった今、あの時の気持ちを忘れることなく、なにかのきっかけやプラスの気持ちを提供できるような図書館員でありたいと強く思う。

法経図書センター / 小室 茜

中学2年生の初体験

私が図書館員になった直接のきっかけは、進路選択で悩んでいた頃の母の何気ない一言ですが、選んだ理由は中学生の頃に遡ります。

中学2年生の夏休みに、授業で与えられたテーマについて、図書館で調べるという宿題のために、初めて市立図書館へ行きました。そこは、小学生の頃に違う街で通っていた小さな図書室とは全くの別物でした。天井は高く、パソコンがあり、大人たちが採光窓の下のリクライニングソファでくつろぎ、規則正しく並んだ大きな書架には難しそうな題名の本が並べられ、大勢の人がいるのに、喋るのがためらわれるくらい静かでした。カルチャーショックを受けつつ、館内を一通り探したのですがテーマについての本を見つけられなかったので、カウンターに座っている若い職員に聞いてみたところ、1分もしないうちに数冊の本を持ってきてくれました。

この体験で、図書館に対するイメージが「暗くて、空気が重く、職員が無愛想な場所」から、「明るくて開放感があり、接しやすく知識ある職員がいる場所」へと一変しました。そして、このような図書館で働いてみたいと思ったのです。

念願叶い図書館員となった今、図書館で働く喜びをかみしめつつ、良い意味で図書館のイメージを裏切るサービスを提供していきたいと思っています。

大学図書館 整理課 / 瀬戸山雄介

紆余曲折しましたが ...

中学生の頃から漠然とではありましたが、将来は本に携わる仕事に就きたいと思っていました。単純な理由ですが本を読むこと、書くことが好きだったからです。

そして、図書館で働くという決意したのは大学4年生の時です。

入学前から大学で司書資格を取得することは決めていて、それに必要な単位も順調に取っていました。しかし、4年生という土壇場になって必修科目が重なってしまい、司書資格取得は諦めざるをえませんでした。ですが、もともと一般企業への就職も考えていたので、そこまで残念には思いませんでした。しかし、選考が進むのは本とは関係ない企業ばかり。就職活動をすればするほど、本当にこれでいいのか？という迷いが生まれてきました。そして、内定間際になって、多少遠回りしても図書館で働こうと決意しました。

皆さんにもなりたい職業があると思います。

大学時代の専攻は心理学。実は図書館も試験前に行く程度。そんな私もいろいろ遠回りしましたが、何とか図書館員をやっています。特に就職活動期には“やりたいこと”とのギャップに悩むこともあると思います。しかし、困難にあたってはすぐに諦めず、意志を強く持ち、努力すれば道は拓けると思います。

大学図書館 整理課 / 吉野 末峰



Q. 授業の発表で使う資料を人数分コピーしたいのですが…?

A. 授業の過程で使用することを目的としたコピーは著作権法で認められていますので、人数分コピーをしても問題はありません。ただし、**必要と認められる限度内**ですので、むやみにコピーすることは避けましょう。

Q. レポートで他の人が書いた文章を使いたいけど、勝手に使ってもいいの？

A. レポートを作成する際、他の人が書いた文章を引用して自分の考えを説明することがありますが、**引用の目的上正当な範囲内**であれば、著作者の許可がなくても引用することができます。もちろん、図表などでもOKです。

「引用」を行う際には、カギ括弧などで、本文（自分のモノ）と引用部分（他人のモノ）をはっきり区別すること、本文が「主」、引用部分はあくまで「従」の関係であり、量的にも本文の方が多いこと、どこから引用したのか（タイトルやページ数など）を明記すること、といった点に注意してください。「盗作」にならないよう、十分に気をつけましょう。

Q. 引用文献リストの書き方を教えてください。

A. レポートなどで引用した場合、引用した資料（引用文献）のリストを作成する必要があります。項目や書き方は様々ですが、「SIST02（科学技術情報流通技術基準）」では以下のように定めています。

【図書の場合】

著者名・書名・版表示・出版地、出版者、出版年、総ページ数・

【雑誌記事（論文）の場合】

著者名・論文名・誌名・巻数、号数、出版年、
はじめのページ - おわりのページ・

【Webページの場合】

著者名：“Webページの題名”・
Webサイトの名称（媒体表示）、入手先（参照日付）。

「来ぶらり」のバックナンバーは大学図書館ホームページ (<http://www.glim.gakushuin.ac.jp/>) で公開しています。

来ぶらり No.78 2006年10月1日発行

発行責任者：荒川一郎 編集委員：生田陽子・入村圭紀

学習院大学図書館 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

03-3986-0221(代) 内2396(レファレンス) 内2397(閲覧) 03-5992-1009(閲覧直通)